

青年就農給付金で 「むらの後継者」は 育てられるか

大分県豊後大野市「直売所直営農場」「雇用型農事組合法人」の実践から

文=編集部 写真=尾崎たまき

8200人分の予算枠に対し、3月末時点で1万5000人の希望者が殺到したという「青年就農給付金」。「むらの後継者」「むらの担い手」づくりにどう生かせるか、これまでも独自の後継者育成に取り組んできた大分県の直売所、農業法人を訪ねて考えた。



「夢市場」直営農場。県立農業大学校卒業の下川紗貴子さん（22歳）は、「30歳までには独立し、観光農園を開きたい」と考えている